

東海村における小規模事業者の

景況調査報告

令和1年4月～

令和4年3月

令和4年5月

東海村商工会

目的：

東海村の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、当該地域における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

方法：

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 40 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は令和 1 年 4 月～令和 5 年 12 月までとし、半年ごとに景況感をまとめ、報告する。

対象事業者：

東海村にて事業を行っている小規模事業者

調査項目：

- ① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感について前年度同時期と比較した。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響が、東海村の中小企業者にどの程度影響したかを調査した。
- ③ 東海村で事業を行う上で、現在認識している課題・問題点を調査した。

<調査項目の変更>

令和 2 年 4 月～

変更前

調査期間における設備投資の有無、および、今後の設備投資の予定を調査した。

変更後

新型コロナウイルス感染症の影響が、東海村の中小企業者にどの程度影響したかを調査した。

調査属性

製造業（食品加工業を含む）	9社
建設関連業	12社
小売業（卸売業を含む）	10社
サービス業（飲食、観光含む）	10社

事業者の規模

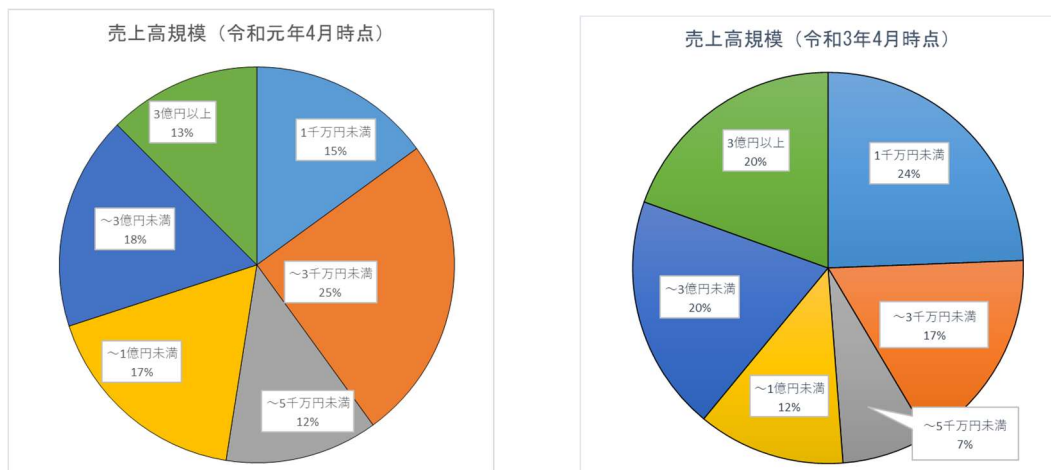


図1 売上規模による事業者の調査割合

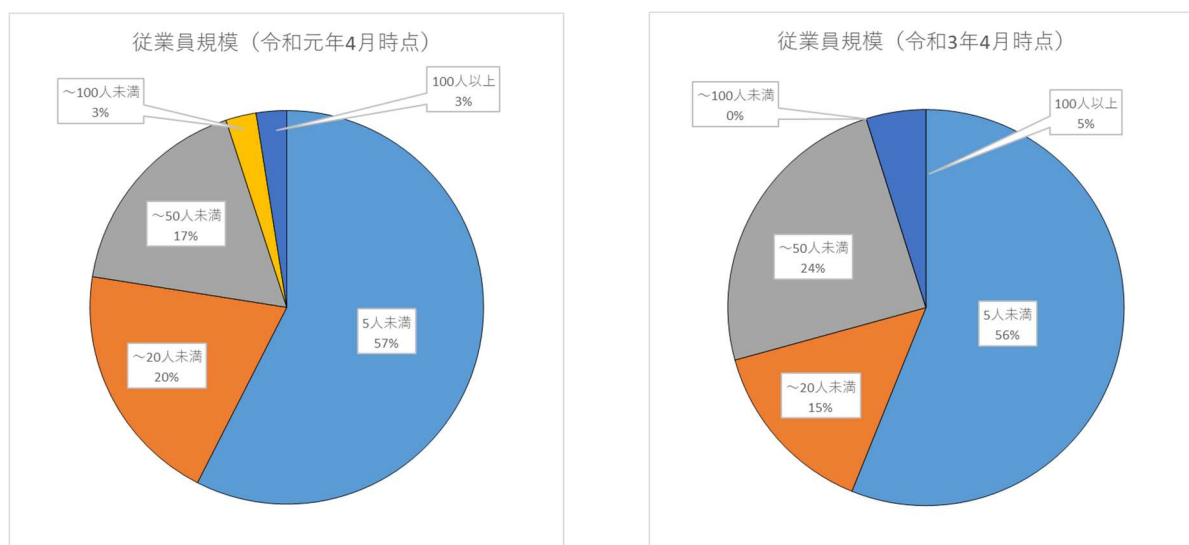


図2 従業員規模による事業者の割合

参考までに、コロナ禍前の資料も載せます。事業所の入れ替わりも数件あるので、正確なところはわかりません。しかし、今まで、1千万円以上の売上があった小規模事業者が1千万円を切るようになってきていることは明白であると思われます。

1. 景況感について

東海村では、全体的に不景気感はまだまだ強くありますが、資金繰りに関しては回復の兆しが見えています。また、今まで好調であった建設業関連ですが、粗利益に不安が出始めたようです。後述しますが、仕入の困難さや材料費の高沸が理由として挙げられるかと思われます。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたサービス業ですが、令和4年1月～3月にかけては回復の機材がみえているようです。

表 1-1 令和4年1月～3月間のDI※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感
製造業 (食品加工含む)	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 55.6
建設関連業	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業 (卸売業含む)	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 70.0
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 30.0	▲ 20.0	0.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 30.0
全業種計	▲ 39.0	▲ 26.8	▲ 39.0	▲ 12.2	▲ 19.5	▲ 46.3

表 1-2 令和3年10月～12月間のDI※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感
製造業 (食品加工含む)	▲ 44.4	▲ 11.1	▲ 44.4	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 44.4
建設関連業	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 8.3	▲ 41.7	▲ 33.3
小売業 (卸売業含む)	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 60.0
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 10.0	0.0
全業種計	▲ 39.0	▲ 19.5	▲ 39.0	▲ 22.0	▲ 22.0	▲ 34.1

※1 DI (Diffusion Index : 業況判断指数)

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

東海村における、全業種の平均D I の推移を以下に示します。

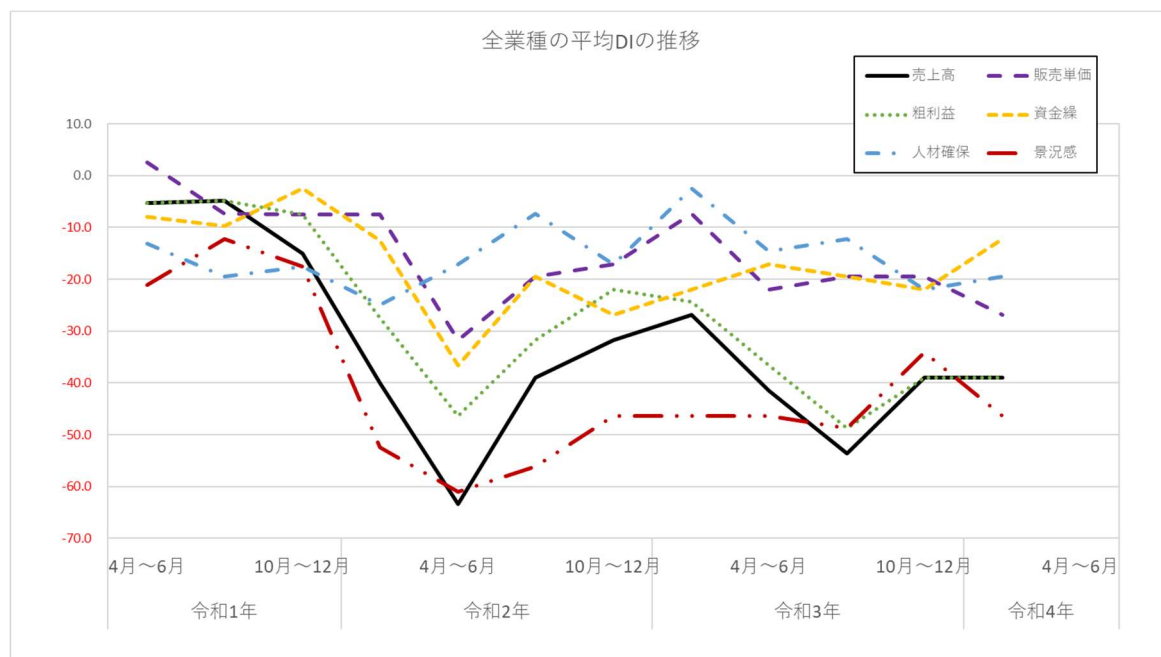


図3 東海村の全業種における平均D I の推移

図3では、平均としてみれば、全体的に悪い状態のまま横ばいという観があります。足元でも、全体的に安定しているように見え、中期的にとらえれば、資金繰りが良いとは言えませんが、安定してきているようです。

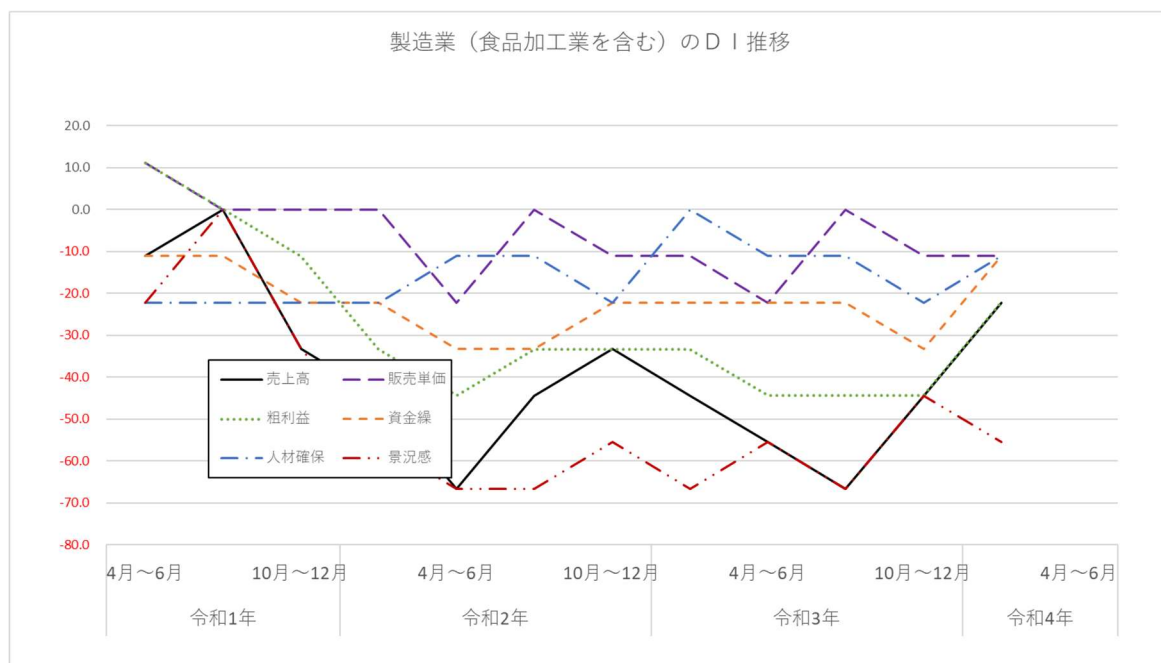


図4 東海村の製造業（食品加工業を含む）におけるD I の推移

図4の製造業では、令和1年の下期から低迷がはじまり、コロナウイルス感染症の影響でさらに失速したことがわかります。低迷したまま、上下を繰り返している状況です。

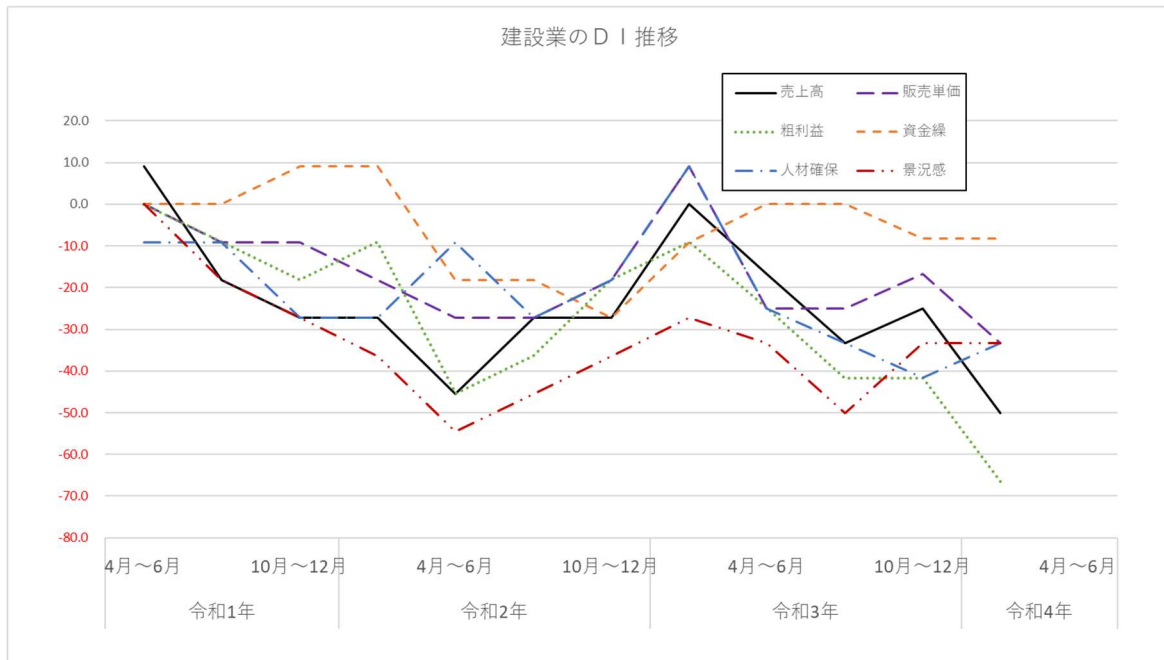


図5 東海村の建設業におけるD I の推移

図5は、令和3年中期ころから不安のあった建設業界ですが、令和4年3月期に入り失速が顕著になり始めました。粗利益がとれないというのが大きな理由のようです。コロナ禍に入り材料が入りづらいという話を耳にしますが、それにより仕事の遅れ、ひいては売上高の低下、入金が遅れといった悪循環が見え隠れしています。

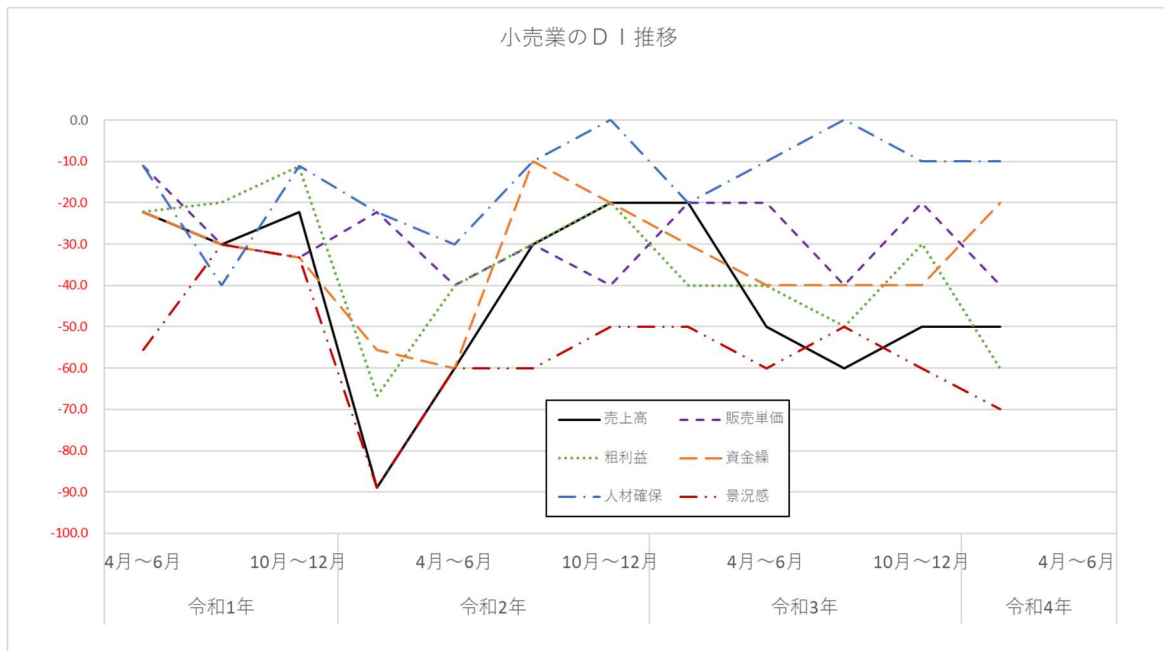


図6 東海村の小売業のD I の推移

図6の小売業に関しては、悪い状態のまま横ばいの状況が続いています。令和2年1月～3月にかけての低迷期に比べればよいのかもしれませんが、資金繰りの不安による心情的な不景気感が拭いきれない状況です。

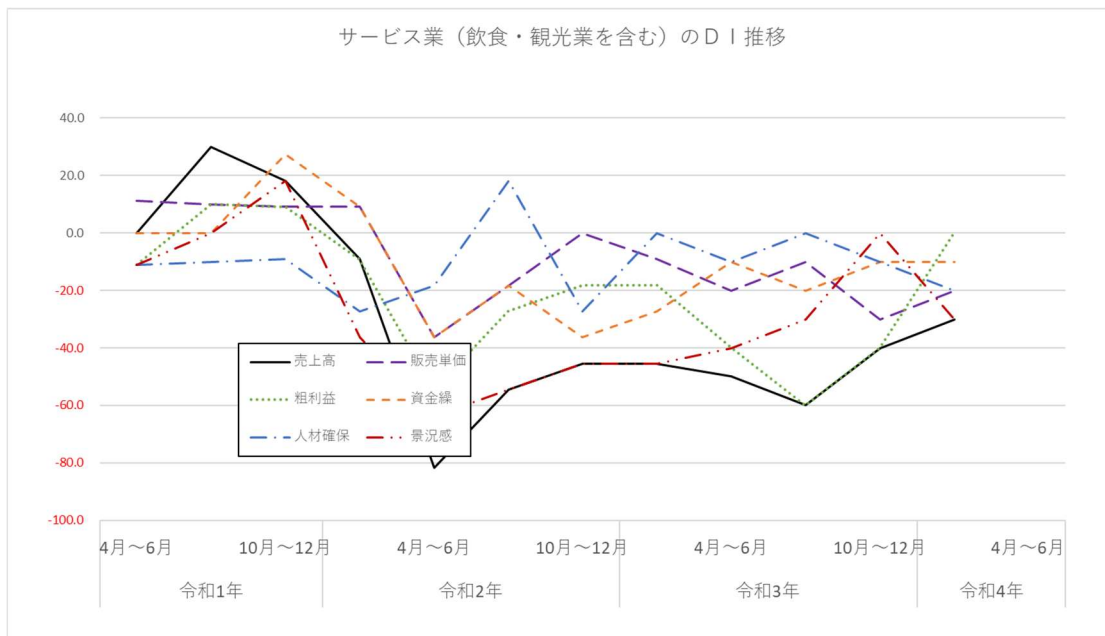


図7 東海村のサービス業（飲食、観光業を含む）におけるDIの推移

図7のサービス業（飲食・観光業を含む）に関しては一時期非常に悪い状況が続きましたが、直近では回復している傾向がみられます。特に資金繰りのDIが土ゼロになりました。協力金などの影響ではないかと思われます。

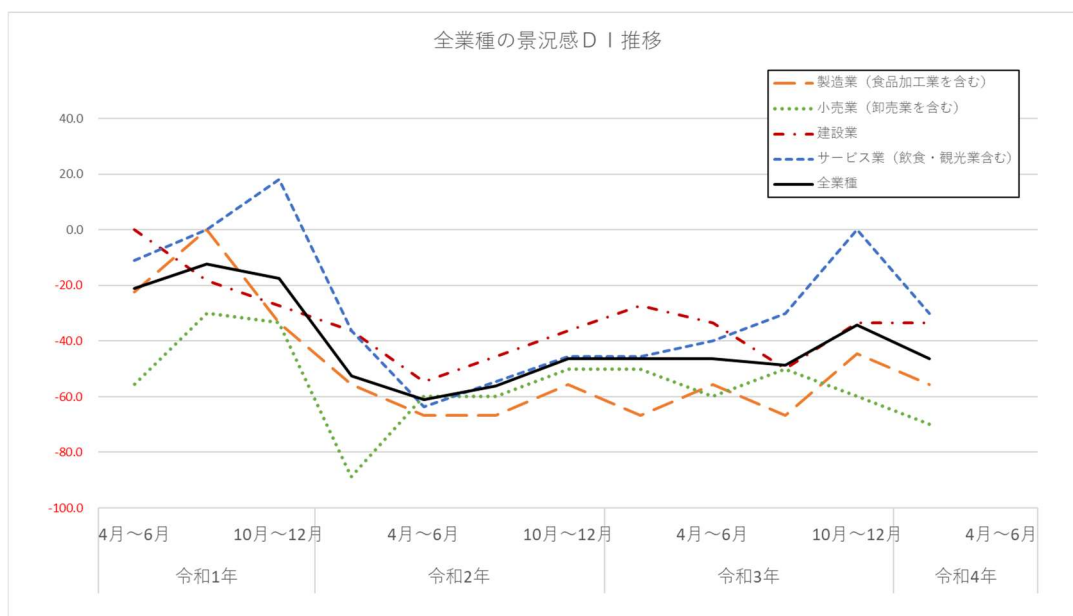


図8 業種別景況感DIの推移

景況感 DI 変化と GDP の変化は同じような動きをします。東海村でも全体的にみれば回復の兆しが見えています。

サービス業の立ち上がりが目立ちます。売上が下がったままであるにも関わらず、景気が回復している（困っていない）と感じるのは実質的な景気回復とは別の要因であろうと推測できます。

2. 新型コロナウイルス感染症の影響

図9では、業種別のコロナの影響について調べてみました。令和3年9月時点では、建設関連業は、「資金繰りが悪化した」という項目が少なかったのですが令和4年3月期の調査では資金繰りの悪化を伝える声が大きくなっているようです。また、小売業(卸売業含む)は、資金繰りやイベントの中止に加えて、「原材料の入手が困難になった」という項目が目立ちます。

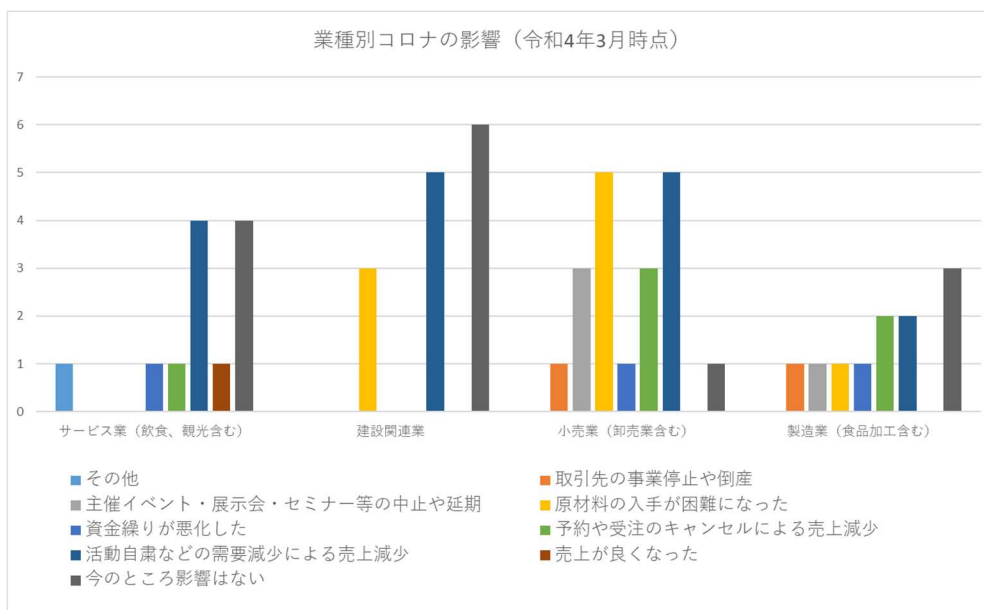
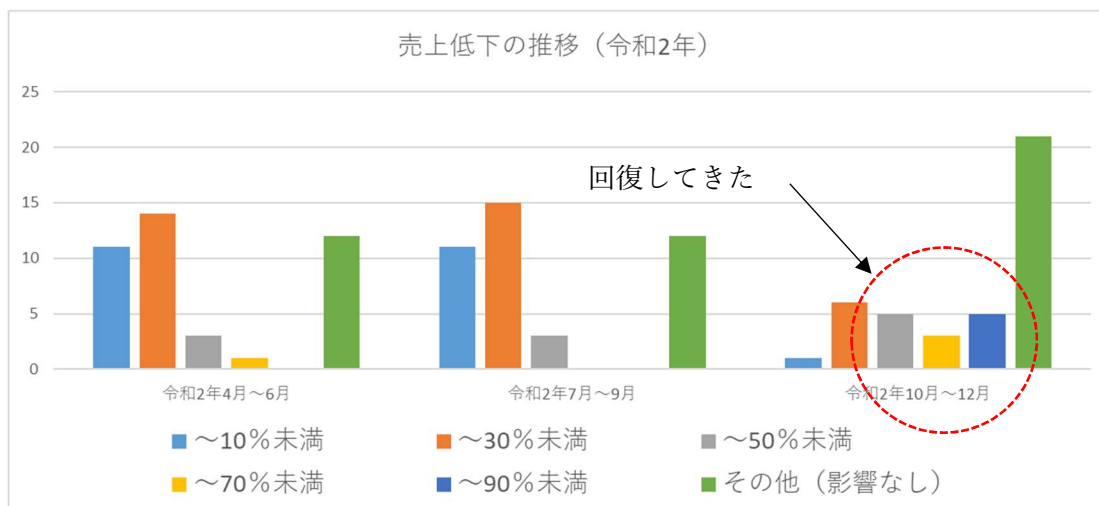


図9 新型コロナウイルス感染症の経営への影響

図10では、前回と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で売上がどの程度まで落ち込んだかを確認しました。令和2年10月以降からは、影響を受けていないと回答する企業50%以上を占めています。しかし、年を追うごとに、30%以下の企業と、影響を受けていない企業との二極化する傾向がさらに強くなっています。



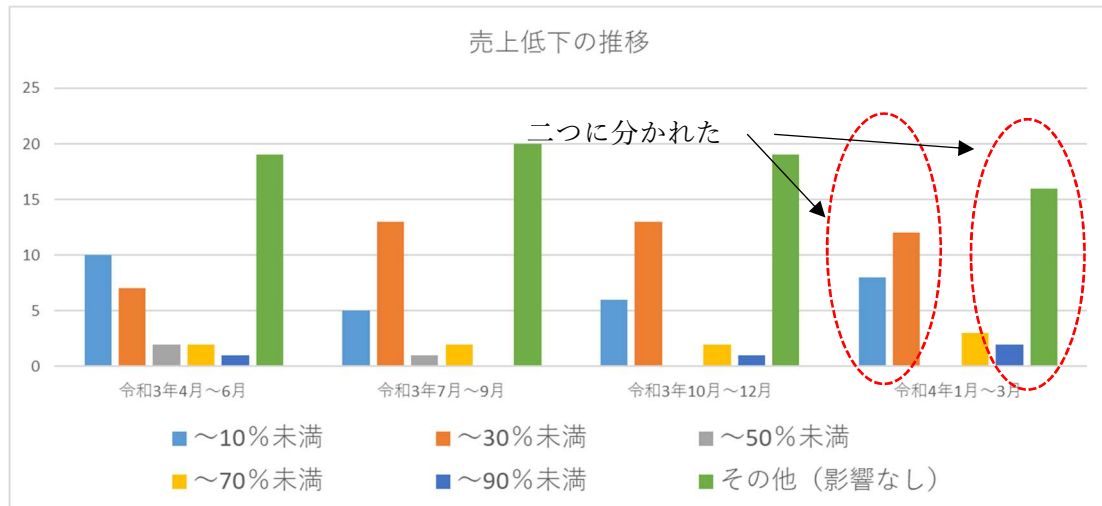


図 10 売上低下の状況

図 11 では、新型コロナウイルス感染症に向けて業種別にどのような対応策をとっているのかを調べました。以前は、建設業関連では「特におこなっていない」といっていないという回答が突出していましたが、足元では、「給付金・助成金・補助金などの申請」を行ったり「金融機関への融資」を行うところが増えています。このことは資金繰り DI にも表れています。対して、サービス業は、「給付金・助成金・補助金などの申請」が目立ちます。

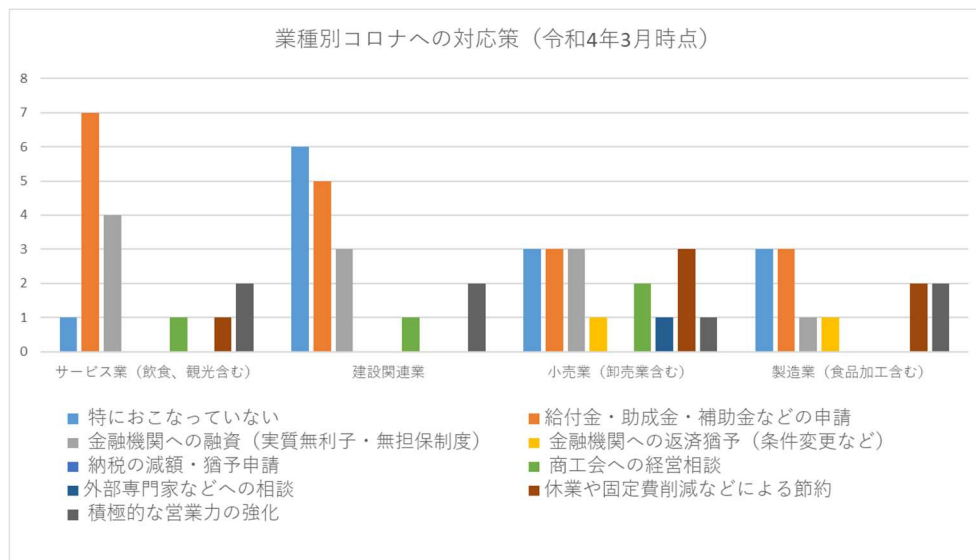


図 11 新型コロナウイルス感染症に向けた対応策

3. 小規模事業者の課題意識について

図 12 では、経営者の課題認識の推移を示します。

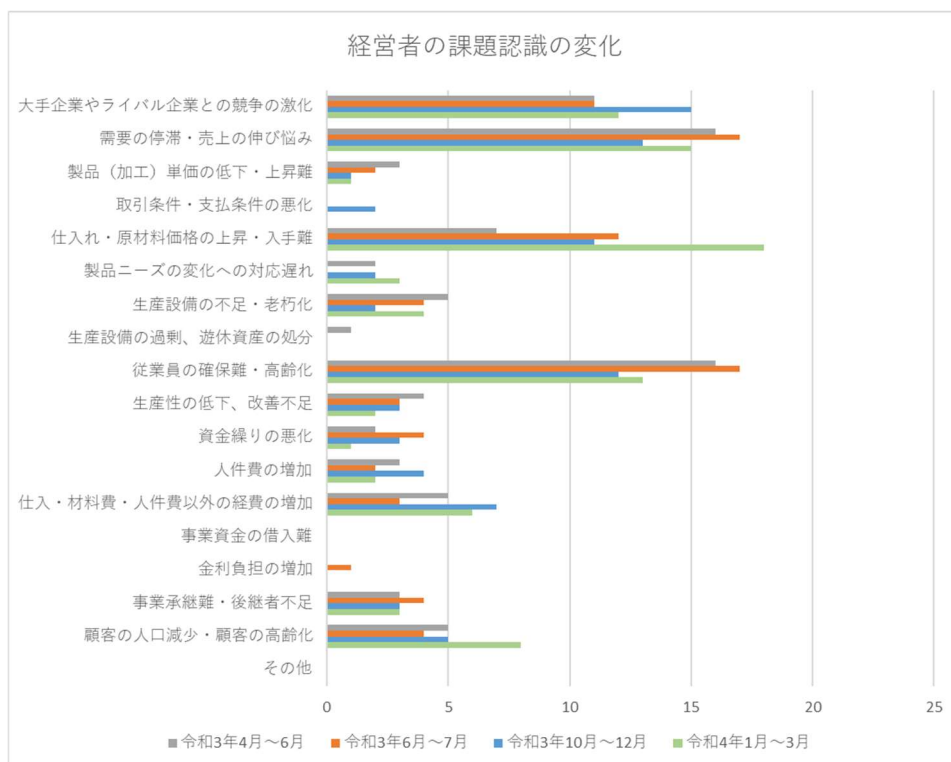


図 12 東海村における小規模事業者の課題意識

令和 4 年 3 月期では、「仕入れ・原材料価格の上昇・入手難」の項目が目立ちます。また、それ以外の経費の増加を悩む方も増えています。また、ここにきて需要の停滞による競争の激化もますます激しくなっていることが伺えます。